

室戸ジオパークと地域活性化に関する調査研究

1120416 渡辺 園絵
高知工科大学マネジメント学部

1、概要

地域の自然や文化を活かしながら地域活性化に繋げる施策として「ジオパーク」が注目されている。ジオパークは「大地の公園」ともいわれ、地質学的に貴重な地域や文化的な価値を保護しながら持続的な地域の経済発展に繋げる活動である。本稿では、2011年に世界認証され、世界でも特異な地形として注目される室戸ジオパークを中核としながら、少子高齢化や過疎化の進む地域の活性化を誘引するために必要な要因を検討分析する。筆者の渡辺と室戸のかかわりは深く、現在でも祖母が在住している。幼少より馴染みのある室戸に着目した理由の一つはここにある。室戸が世界ジオパークに認定された経緯と現状、そして課題について、既存文献や資料から考察し、現地における聞き取り調査において検証した。室戸がジオパークを中核としながら地域の特色を活かした発展を促す方策を模索した。

2、背景

本稿において調査対象とする室戸ジオパークは、筆者の渡辺との縁が深い。現在でも室戸は祖母が在住しており母親の出身地である。高知市内に比べて自然が多い室戸市には、幼少時より長期に渡り滞在した馴染みの場所である。室戸が世界ジオパークに認定されたことをきっかけに興味を持ち研究テーマとしたいと考えた。大学では地域活性化問題の調査に取り組んだこともあり、この際、室戸ジオパーク自体を調査しながら、地域の活性化を考えるチャンスを得たいと考えたことが本研究に取り組むきっかけであった。

3、目的

本稿は、ジオパークの概念、世界認定された室戸ジオパークの経緯と現状、国内外の現状、地域との連携、取り組みの現状と課題等を、文献調査と聞き取り調査から検証を行い考察し、筆者なりの実課題の解決策を模索、提案することが目的である。

4、研究方法

本調査研究においては、まず既存文献や公表資料、各種データをもとに文献研究を行う。これらのデータをベースに現状分析を行いながら課題を抽出し仮説を検討する。さらに室戸ジオパークを訪問して聞き取り調査を行うことで、これらの課題の検証を行う。具体的には、室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の柚洞一央氏、室戸市ジオパーク推進課課長の和田氏および班長の田中氏に直接的にインタビューを行った。こうして得られた知見から、室戸ジオパークの認定された経緯、現状、課題などをさまざまな角度から分析検討しながら考察し、現在の実課題解決を志向した解決策を提案する。

5、結果

室戸が世界ジオパークに認定されて以来、観光客が増加している。団体客は高知県内の人が多く、県内周知が広がり注目は高まっている。しかしながら、当初の文献調査では得られなかった事実は多く、現状では認証を得ることが目的化していた感否めない。ジオパークが本来求めている事項は、地質の特異性だけでなく、地域との連携や経済活動の活発化、教育活動、歴史や文化活動との連携など多様である。現状では、地元の飲食店の

経営者が岩の地層に見立てたシフォンケーキやジオカレー等独自メニューを考案するなど地域の協力体制が一定レベル見られるものの、これらは十分であるとは言えず課題が多いことが判明した。観光客からのガイド希望が多くガイド不足も懸念事項である。ジオパークとは地域づくりのためのツールである。「室戸ジオパーク＝岩」という誤った先入観を正し、地域住民の理解と協力の輪を徐々に拡大する活動が必要だ。地域住民が地域の魅力を知ることが、ジオパークが世界認証を得て、これを維持するために重要なテーマである。年少者への啓発としては地元高校と連携した「ジオパーク学」のカリキュラム化、地域住民向けにはジオパーク検定を実施するなど、取り組みに対する正確な理解普及への活動がスタートしている。今後はさらに踏み込んで、住民と気軽に対話できるカフェ設置などを通じて、住民への解説や説明を工夫する必要がある。地質保全と経済効果の相乗効果を測る試みを考える必要がある。

ガイドも地質に近い室戸岬のみであり、他の要素を深く知らしめるための他サイトのガイドや、客のニーズに合わせたガイドの育成も必要である。

室戸地域全体のビジョンを考える必要もある。地域活性化のためにルーツとしてジオパークを活用し、中長期的なビジョンを計画策定すべきである。それには地域住民と、自治体や関係者の相互理解が必要である。

6. 考察

ジオパークが認証を得ることは重要だが、このハードルはスタートに過ぎない。本来の目的に沿ったジオパークの醸成には、住民の協力と理解が必要である。ジオパークには、一定の緩やかなガイドラインはあるものの、活用に対する裁量の幅が大きい。地域の魅力を活かした地域ならではのジオパークづくりが出来る可能性がある。一般的には、データで示せる成果を求められるだろうが、

本質的には、今後の室戸の地域活性化に、ジオパークがどのように活用されるかを真剣に検討する必要がある。室戸には世界的に特異な地質があり地質学的には一定レベルの評価があるが、人と自然のつながりの体験や、貨幣経済のみに依存しない住民の生活等、室戸独自のジオパークづくりが可能な場所である。そういった所から「人間としての心の豊かさ、幸福感」などを軸に、世界に対して室戸スタイルのジオパークを発信して行けるような活動を大切に育ててほしい。

7. 提案

課題も多い現状であるが、現実的な実課題解決として「滞在型ジオパーク」を提案する。室戸は地理的に交通の便が悪いが、その不便さを逆手に取り、訪問客の宿泊施設として、地元住民の家に宿泊するプランである。室戸ジオパークの細部を詳しく知り、地域住民のありのままの暮らしを肌で感じることができる。地元ガイド宅に民泊し、地元住民ならではの話を夜通し聞きながら室戸の郷土料理を体験できる。宿泊施設不足も補え、新しく宿泊施設を建設するコストも削減でき、室戸の自然を壊す恐れもない。

【参考文献】

- [1]永野正展「プロジェクトマネジメントから見たジオパークの進め方」高知工科大学マネジメント学部『地域活性化システム論』309-331頁,2009年。
- [2]「ジオパーク認定、世界の室戸さらに磨いて」高知新聞社説、2011年9月20日朝刊
- [3]室戸ジオパーク推進協議会から得たプレスリリース集資料、2008～2012年。
- [4]室戸市役所ホームページ
(<http://www.city.muroto.kochi.jp/>)
- [5]室戸ジオパーク公式サイト
(<http://www.muroto-geo.jp/www/>)
- [6]日本ジオパークネットワーク
(<http://www.geopark.jp/>)